

に縄式土器以後のものが出土する。

表にみるように鹿児島県、特に内陸部では塞之神式土器の出土遺跡数に比べて、縄式土器の出土遺跡数は激少しており、増加傾向にある他県との違いが表われている。生活様式においても縄式土器の時期には盛んに貝塚がつくられるように、海への依存度が強まる。このことは植生の荒廃による食生活の変化が要求された結果であろう。

塞之神式土器も細分化によって地域性のあることが指摘されている(多々良:1980)。今度は縄式土器も細分化を試みることによって、綿密に鬼界噴火前後の様相を比較すれば、人々の動きがより一層明白となるであろう。

町田洋「火山活動」『縄文文化の研究』1(縄文人とその環境) 1982年 118P~125P

新東晃一「南九州の火山灰と土器型式」『どるめん』19号 1978年

多々良友博「輪野尾採集の塞ノ神式土器」『鹿児島考古』第14号 1980年 79P

2. 田中堀遺跡の調査概要(第1, 2図参照)

本田 道輝

田中堀遺跡は、川辺郡川辺町上山田字田中堀に所在する縄文後期を主体とする遺跡である。かつて、この遺跡より採集された土器類を実見する機会を得たが、それらは指宿式と市来式の古いタイプといわれていたもので、両者の移行を示すようなものもあり、市来式の出現状況を知ることができる遺跡として注目した。近年、一湊松山遺跡(熊毛郡上屋久町)の調査により市来式の祖型式として松山式が設定され、その後、⁽¹⁾河口貞徳氏は南九州各地の同類土器を提示し、この土器の変遷と⁽²⁾南島文化への影響を考察された。筆者は、指宿式・松山式・市来式の層位関係及び型式変化を探る目的でこの田中堀遺跡を選び調査を実施したものである。

調査は、昭和56年12月25日~昭和57年1月7日・10日に実施した。その間、有元彰順氏をはじめ鹿児島大学考古文化人類学専攻生、同考古学研究会OBには終始御協力をいただき、休日を利用して瀬戸口望・多々良友博・成尾英仁の各氏、県文化課職員の各氏にも調査に参加していただいた。また、遺跡について久保春信氏、土器について河口貞徳・三島 格・島津義昭・富田紘一の各先生、各学兄に御教示をいただいている。誌上を借りて深く感謝の意を表したい。

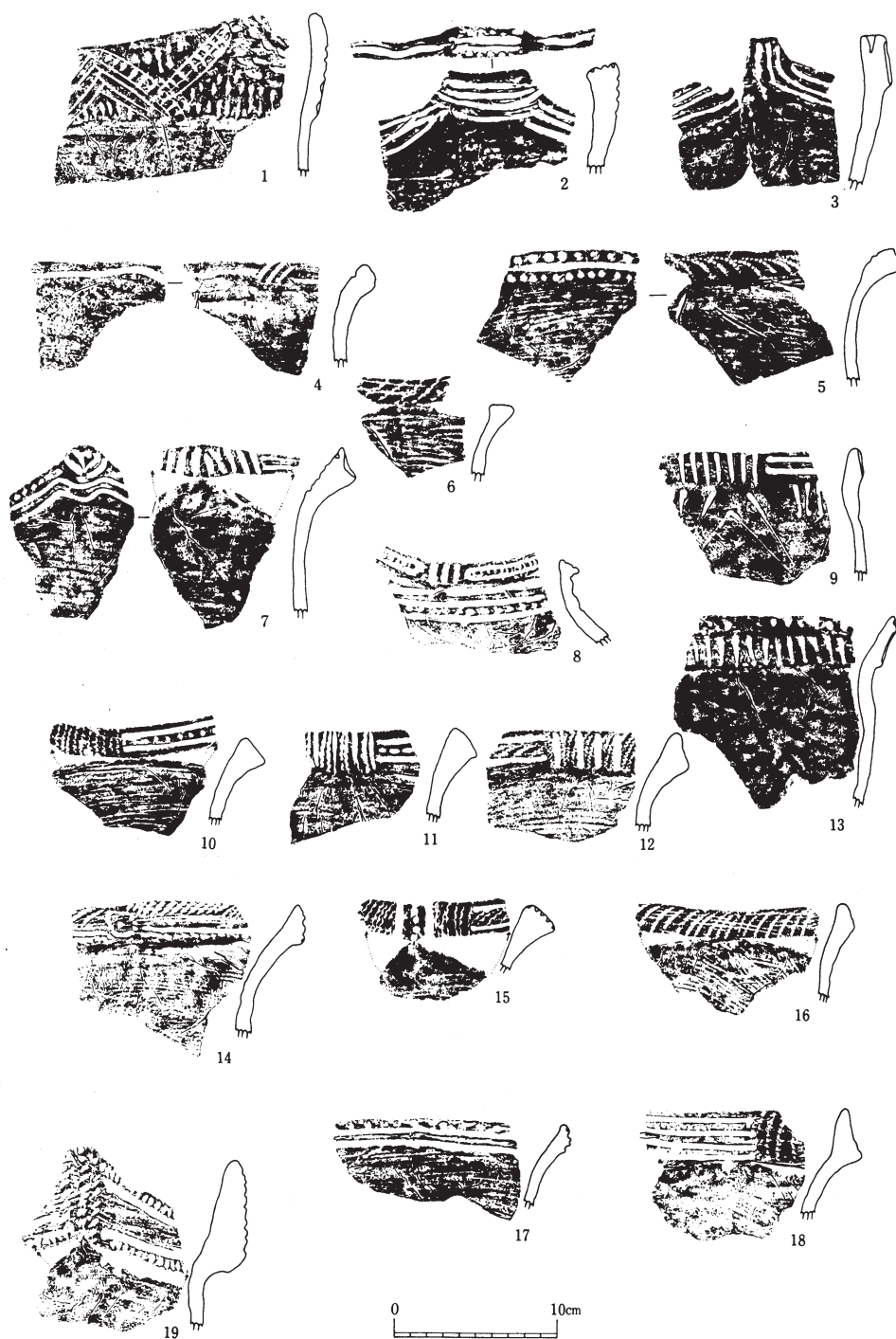
調査は、同一畑地内4地点で行ない、70㎡の面積となった。地層は各地点で少々異なるが、およそ次の通りである。第1層 耕作土層、第2層 暗黄褐色軟質土層、第3層 暗茶褐色土~黒褐色土層、第4層 明茶褐色粘質土層、第5層 黄褐色パミス混土層(固い)、第6層 紅褐色砂質土層(ヌレシラス)。このうち、遺物包含層は第2層・第3層・第4層であり、第2層最下部で少量の市来式・松山式が、第3層上部で松山式・指宿式、同下部で指宿式が多量に出土している。第4層を掘り込んでの遺構が点在したため、第4層上面で調査は止めた。

この調査によって出土した遺構・遺物は多く、目下整理中であるため、ここでは概略述べることにする。遺物の主体となるのは土器で、特に第3層から多量に出土している。指宿式は、単純な深鉢形が多く、少量の甕形もあり、把手をもつ浅鉢形や脚台も存在する。文様は直線的なものが大半を占め、第3層下部では沈線が太目になる傾向がみられる。数点の磨消縄文と貝殻による擬似縄文



第1図 田中堀遺跡出土土器

(1～6 指宿式・7・8 貝殻擬似縄文・9・10 連点による擬似縄文)



第2図 田中堀遺跡出土土器 (1. 未型式・2~17松山式・18・19市来式)

の土器片が相伴している。松山式は、一湊松山遺跡と比較して、器形・文様ともにバラエティーに富み、数種に分類することが可能であるが、時期差としては把握できない。脚台が存在する。市来式は、数点出土したにとどまるが、どこから市来式とするかについては本報告の中で述べていきたい。その他、第3層から深浦式・竹崎式（本県で最初の出土例であろう。有脚底部も存在する。）も出土しており、付近に遺跡の存在が考えられる。石器は、土器に比して極めて少なく、磨製石斧片・石鏃・スクレイパー・すり石が各数点、3条の凹線を刻み込んだ特殊石製品1点が出土したにすぎない。他に、シイの実と思われる炭化物が2点出土している。

遺構は、11カ所で確認され、そのうち7カ所が指宿式期に該当するものであった。内訳は、焼土を内包する土塋1，集石遺構1，集石をもつ土塋1，小土塋8である。小土塋には、遺物を多量に含むものと、遺物をほとんど含まないものとがある。その性格等についても今後検討していきたい。

註

- (1) 上屋久町教育委員会 「一湊松山遺跡」 上屋久町埋蔵文化財発掘調査報告書 1981
- (2) 河口貞徳 「市来式の祖形と南島先史文化への影響」 鹿児島考古第15号 1981

- | | |
|---|----------------------------------|
| 3. 鎌石橋遺跡について
鹿児島考古第16号掲載 | 河口 貞徳 |
| 4. 大隅地方の地下式横穴
最近の調査による地下式横穴の紹介 | 中村 耕治 |
| 5. フィジー島の調査
フィジー島における考古学の現状と現在行われている土器作りの紹介 | 上村 俊雄 |
| 6. 横瀬遺跡出土の鏡について
弥生時代終末期の竪穴住居跡から発見された朝鮮渡来の銅鏡の紹介
(朝鮮と南九州の関連を示すまれな朝鮮渡来の銅鏡) | 弥栄 久志 |
| 7. 上能野貝塚出土獣骨の概要
鹿児島考古第16号掲載 | 松元 光春
西中川 駿
長野慶一郎
河口 貞徳 |
| 8. 王子遺跡の意義 | 河口 貞徳 |